

## 活気ある職場づくりを目指して

中津川営林署 上田 尉 夫

森林林業を取り巻く厳しい環境の中で、私達は将来に向けて納得出来る山を造り、次代に立派な森林を残すことに誇りを持って努力しなければならない。そのためには現地で仕事を進めていく私達が日常の作業の中で良い山造りについて考えた作業をすることが大切であり、その中から、やり甲斐を見い出し、職場の活性化に努め、みんなの自発的な意欲の向上を図ることが必要である。

### ね ら い

1. 話し合いから和を高め活気に満ちた、やり甲斐のある職場で納得のいく作業をする。
2. 画一的な作業を排除し、創意と工夫でその山に合った作業をし、健全な山を造る。
3. 安全の先取りと、手作り活動で安全確保を図る。

この8本の柱をねらいとして、積極的な取組みをしているのでその中の一端を発表する。

#### 1. 職場の和と活性化

今日の厳しい環境の中で、ややもすると作業の中に悩み、欲望といったものが潜在し、とかく職場のムードも暗くなりがちであるが、我が班では、これらを一掃し、ねらいに向って一丸となって努めており、ひいては十分なリーダーシップが発揮出来る班であると認識している。

日常の対話の中から出されている意見を集約して見ると、山造りに誇りを持って次代に立派な山を残したいという願望が強く、そのためにはみんなで創意工夫し、その山に合った健全な山造りをしようとする意気込みがある。又これらを進めていくについては職場の和があって協調性のあることが必要であるが、我が班は、なんでも話し合え、なんでも聞いてもらえるということが非常に良い面だと思っており、今後更に職場の和づくりについて積極的な取組みをしていきたいと考えている。

#### 2. 健全な山造りの取組

私達の山は4団地に分かれており大部分は征生地と花崗岩の深層風化した極めて崩壊し易い地質のうえカモシカ被害の造林地など色々と課題の多い中で山造りを行っている。この課題に対して作業のやり方を工夫し、画一的な仕事を避け、山をよく見、一番その山に合った作業をして健全な山造りに努めている。

(1) 笹生地への除草剤の使用について

笹は刈っても、刈っても密度が高くなるのみで、造林地は被圧されなかなか良い山にならない。そこで昭和55年度から天刈地拵、特殊下刈、経常下刈に除草剤を使用して効果を上げていくが、特に下刈については散布後の上長成長が旺盛になったほか、散布後の下刈は、かん木のみを刈払うだけでよいいため労働力と作業工期はずい分軽減されている。

これらの結果から、今後より効果的に使用するために、除伐作業との関連も考え、散布時期、薬剤の使い分けについて検討を加え、積極的に使用して行く考えである。

(2) 林地崩壊防心を配慮した作業について

昭和58年10号台風によって私達の山も多くの林地崩壊の災害を受けた。崩壊地は沢筋を中心に山腹の崩壊が多く発生している。これらの崩壊地の多くは、画一的な造林地はど多く発生しており、広葉樹の林地は崩壊が少ないことが判明している。

この教訓と今までの体験から、沢筋とか崩壊が予測されるような山腹は、画一的な造林を避け広葉樹も仕立てるように考慮した作業を行っている。特に沢筋については伐採時に小径木の広葉樹の保残に努めているほか有用広葉樹を主体として育てるような方法をとっている。

(3) カモシカ被害の防除について

昭和40年代からカモシカによる被害が発生し、現在被害面積も約26haに及んでいる。その防除対策として、アンレス、ラノリン、オリーブ油を混合した忌避剤と、ポリネットにより防除に努めているが、ポリネットは完全に防除出来るが大きな労務を要する、忌避剤は有効期間も3ヶ月位であるため、場合によっては春と秋の2回処理しているが、多くの労務と経費を費す割には効果も完全とはいかない。

カモシカ被害地を見ると、尾根附近に被害が多く見られ、潔癖な下刈を行った箇所ほど被害が多いように思われる。これらの状況を考え、どれだけでも被害を少なくするための対策として食害の多い尾根附近の下刈は、造林地の成育に支障をきたさない程度に、潔癖な刈払を避けた方法を行ってみたところ、通常の下刈箇所と比較して被害は少なくなっている。そのことによる造林木の生長差もなかったが、今後これらについて比較調査(検討を重ね、どれだけでも被害が少なくなるように努めて行きたいと考えている。

(4) 作業用具の工夫について

作業を効率的かつ安全に行うには、作業用具は使い易く、便利なものでなければならない。私達はそれぞれの作業において色々と創意工夫し、用具の考案、改良をして作業の効率化を図っているが、ここではその内の一部について報告する。

20～30年生の本数調整を必要とする造林地が多くあり、立木伐倒作業のウエイトが高くなっているが、造林の作業の中では危険度も高く技術を要する作業である、この作業の問題点と

してかかり木の処理があり、ヒノキの場合90%はかかり木となるためいかにして安全でしかも効率的に処理するかが課題であった。

私達はこの課題に対し、各自が創意工夫し、色々と改良を重ねて、使い易く、安全に作業ができるものとして、木廻し用ガンタを作って使用している。ガンタの特徴として、操作が簡単、遠隔操作のため安全確保ができる、作業の効率性が良い、軽量のため腰につけて携行できる、など利点が多く、かかり木処理に全面的に活用している。

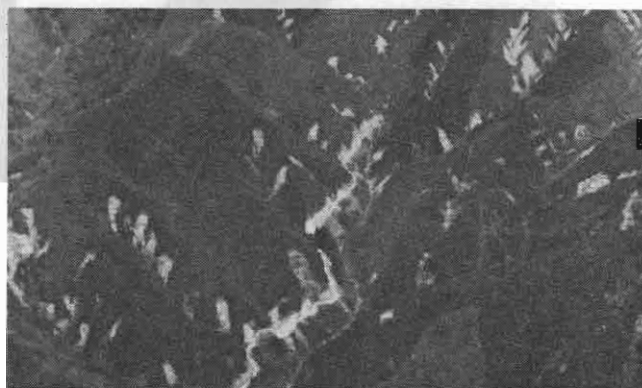
### 3. 我が班の安全活動について

安全活動には、これが決め手だと言うものはないが、災害の防止は不可能ではないはずである。安全はあらゆる方法、機会をとらえて叫んでも実際に現場で取組む姿勢がなければ、安全確保は出来ない。安全は与えられるものでなく、皆んなの手で造るものであることを認識し、自然と地から湧き出るような安全活動を進めている。

このことは、自分達で決めたこと、決められたことは絶対に守るの基本に立ち、決める場合は押し付けにならないよう、なぜ、どうしてかを十分理解し一人ひとりが目的を持って、自分のためであることを自覚することが大切である。そのため具体的な活動として、(1)DDV運動の推進、(2)TBM、安全懇談会の内容充実、(3)災害事例、300事故通報の徹底分析と対策、等を積極的に進めているが、地道な活動の積み重ねが最大の安全対策だと考え今後とも安全確保に最大限の努力をしていきたいと考えている。

### おわりに

我が班で、取り組んでいる一部を報告したが、これらについては、ねらいに対する基本となるものであるが、成果については一步でも近づけたものと認識している。どの課題一つを取りあげてもいかにして技術として体系化し、発展させるかは今後にかかっているが、一生懸命に取り組んで行きたいと考えている。



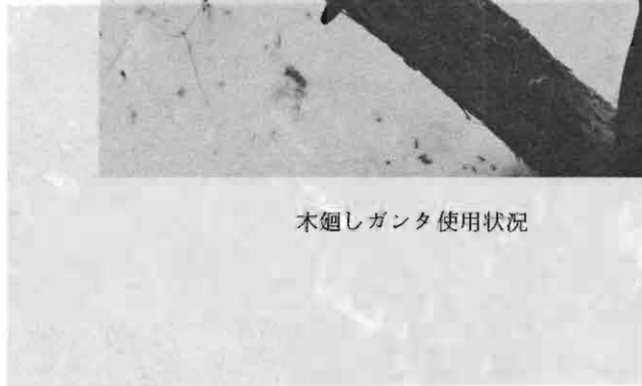
林地崩壊状況



カモシカ食害状況



木廻しガンタ使用状況



法野郷松林